

子どもたちが ツルのえさ場づくりで 大活躍!!

平成24年度 第1回ツルの自然体験学習会

地域の学校と連携して平成18年度から毎年行われている「ツルの自然体験学習会」が今年も平成24年7月4日に開催されました。

1時間目

四万十川・ 中筋川流域に飛来する 野鳥についての講義



子どもたちは、鳥類の専門家 澤田佳長先生から、ツルをはじめ、ヘラサギやオオハシギなどたくさんの鳥の写真を見せてもらい、四万十市の自然の豊かさを実感しました。また、ツルは毎年訪れるものの当地で越冬していない現状があり、えさの確保が課題となっています。そこで、ボランティアでモミ撒きや休耕田の再生を行っていることを学びました。

自然体験学習会は秋にも行い、「ツルの里づくり」の担い手としての意識をさらに高めてもらう予定です!

協 | 働 | 連 | 携



学習会はたくさんの方々の協力のもと行われています!



モミや苗は地元の方が提供してくれました



当日は足洗い場やテント、簡易トイレなども設置されました

2時間目

えさ場づくり体験

国土交通省が整備した中山地区の湿地に移動し、小学生はモミ撒き、中学生は稲の苗植えを行いました。これらは秋に実ってツルのえさとなります。このほか、地元で魚の調査研究を続けている東健作さんとともに、湿地に棲む水生生物を観察。ツルは稲穂だけでなく、メダカやヤゴ(トンボの幼虫)なども食べるため、田んぼや湿地の環境が「ツルの里づくり」にとって非常に重要であることを学びました。

小学生はモミをできるだけ遠くへ撒こうとふりかぶって!



武田会長から田植えの仕方を伝授され、上手に植える中学生



湿地の生き物に興味津々! みんなかぶりつきで見えています



テレビや新聞の取材も多数来てくれました



一度田植えをしてみたかったので、楽しかった。秋にたくさん実ってツルが来てくれると嬉しいです。

ツルを見かけたら

お願い



四万十川および中筋川流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会 事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel: 0880-34-4333 / fax: 0880-34-1451
mail: naka10@cciweb.or.jp

セブン-イレブンみどりの基金

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 この会報は、2012年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受け、発行しています。

四 万 十



つ る だ よ り

四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.16

発行日/平成24年8月31日 ●発行/四万十つるの里づくりの会
<http://www.shimanto-tsuru.com>

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏(野生生物環境研究センター所長)よりご提供いただいております。

平成24年度「四万十つるの里づくりの会」総会を開催しました



33名の会員が参加

武田正会長
あいさつ



7月26日、中村商工会館において平成24年度の総会が開催されました。

はじめに、平成23年度に作成した活動PRビデオが上映されました。その後、事務局より23年度の取り組み概要について報告がありました。ツルは非常に警戒心が強く、遠くが見渡せる場所を好んで降りるため、背の高い草が茂る休耕田を水田に戻すことが重要です。昨年度は地域の理解が進み、江ノ村地区では地元農家の協力によってこれまで二番穂を残していた田に加えて、その周辺部の休耕田を借り上げ、草刈り等が実施できたことなどが報告されました。また、鳥類の専門家である澤田佳長先生によるツルの飛来状況調査結果の報告もありました。

このほか、今後の課題についても話し合われ、会員からは地域のより多くの人に呼びかけて、まずは会員数を増やしていこうといった意見などが出されました。

ツルの飛来状況調査報告



澤田佳長先生

四万十川・中筋川流域への渡来数自体は多いので、市民や行政が協働してできる限りの整備をしていけば、必ずツルは降りてくれると思います!

活動PRビデオ



DVDは行事等で活用中! 中筋川流域の学校等にも配布し、環境学習に使ってもらっています